

廃材が「生き物」に変身

長岡 上組小児童が制作



長岡市豊詰町の上組小の児童が、学校創立150周年記念事業の一環で、廃材を使ったアート作品づくり

廃材アート作家の加治聖哉さんから助言を受けながら、制作に挑む上組小の児童。長岡市豊詰町

に取り組んだ。市内を中心に活躍する廃材アーティスト、加治聖哉さん(25)のアドバイスを受けて挑戦。フクロウやカニ、イモムシなど思い思いの生き物を作った。

制作は7月中旬に3日間かけて全学年が行った。13日午前は6年生70人が参加。加治さんから材料の形をよく観察するようにと助言をもらい、かんなくすを

創造力は無限大

犬の体毛に見立てたり、へびのうろこを木の細かい破

片で表現したりと工夫を凝らした。天界に住む架空の生き物を想像して作る児童もいた。

小見宏翼君(11)は「廃材は形がさまざまで、最初のイメージ通りにはいかなかったけれど、自分なりに工夫した。出来栄は80点くらい」と笑顔だった。

全校児童401人分の作品は夏休み期間中、校内の展示室に飾る。